

# 学研 おんがく通信

Web版も  
あるよ★

バックナンバーが  
閲覧できる!  
ウェブならではの  
情報が満載!

11月号

2012  
年  
10  
月  
25  
日

Gakken

(株)学研パブリッシング 音楽出版事業室  
〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8  
Tel. 03-6431-1220

学研 おんがく.net <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

学研 電子ストア <http://ebook.gakken.jp/gstore/>

今年は記録的な残暑に見舞われましたが、朝夕の肌寒さにすっかり秋を感じるようになりましたね。先日レストランで食事をしていると、窓の外に一匹の猫が見えました。人々が行き交う歩道の脇にぼつんと静かにたたずんでいました。みんな猫を見つけるたびにニコリとする様子を見て何だか優しい気持ちになりました。猫は体をペロペロと舐めた後、秋の夕暮れの中に消えていきました。(さ)

## 脱かってなに??



ピアノ・レッスンで「力をぬいて」「力みすぎよ」と注意をされた経験は、誰もが持っているのではないのでしょうか。ピアノを弾くときの「脱力」とはどういうことなのか…、ピアノの発音のしぐみをまじえて考えてみたいと思います。

### ●音を出すために必要な力とは?

まずは発音のしぐみについて考えてみましょう。

ピアノの音が出る時…、それは、鍵盤が下げられハンマーが弦に触れたときです。

ピアニストは、鍵盤を押すことで音を出します。

その後は、どんなに鍵盤に圧力を加えても音に変化はありません。

音を出すために必要な力とは…

①ハンマーが弦に触れる以前の「鍵盤を押す力」( *ff* のときなどは数kgの大きな力)

②音を持続させるために鍵盤を「押さえておく力」(\*60~65g程度のとても小さな力)の2つにわけて考えることができます。

### やってみよう!

—発音後に必要な力とは?—

1g単位の目盛りがある小さな秤を用意して、1本の指で\*60~65gくらいまで押してみましょう。

重い? 軽い? ぜひ、生徒さんと一緒に実験してみてください。

\*ピアノにより差異があります。

### ●脱力のタイミングを知る

上記のことから、発音後の力はとても少ない力で良いことがわかります。

たとえば、発音後も力を解放できずピアノを弾いた場合、手や指、腕までもが疲れ、思うような演奏ができなくなってしまいます。

発音のために必要な力を発した瞬間、その直後に鍵盤を押さえておく力だけを残して解放する…これが、楽に、美しくピアノを弾くためにとても大切なことだといえます。

### ●重力を利用して弾く～腕の脱力～

「重みをのせて～。力をぬいて～。」

レッスン現場でよく耳にするフレーズです。これは、20世紀初めに、イギリスのピアノ教師、トバイアス・マティらが唱えた「重量奏法」と関係があります。「重量奏法」とは、重力を利用して腕の重みを落下させて打鍵をする奏法で、重量感のあるふっくらとした音が出せます。重力を利用するための不必要な力(=抵抗力)を脱力させる、という意味で「力をぬいて～」といわれているのでしょう。特にロマン派以降の楽曲( *f* の演奏や音楽の抑揚付けなど)でよく用いられる奏法です。

このほかにも、ピアノを弾くときの脱力については、さまざまな考え方がありますが、大事なことは、どのような目的で、どの部分の力を抜くかです。

近年、「ボディ・マッピング」が注目されています。身体のしぐみを知ることで、学習者にはより良い演奏法が、指導者には奏法指導の手がかりが見えてくるはずですよ。(いも)

〈参考文献〉「こうすればピアノは弾ける」(永富和子著/学研パブリッシング刊)  
「ピアノ演奏の根本原理」(トバイアス・マティ著/中央アート出版社刊)

ホームページ  
2012年11月  
リニューアル予定!!

学研  
おんがく.net  
法人会員様ページが新登場!

▶ <http://gakken-publishing.jp/ongaku/>

他にも...

twitter やってます▶ @gakken\_music

Facebook やってます▶

▶ <http://www.facebook.com/gakken.music>



## びあのどリーむ情報

びあのどリーむ  
20th  
Anniversary

「びあのどリーむ」シリーズの創刊時期について、今回は「かくてんどリル」(全5巻)、「どリーむ」シリーズには、「ワークブック」(全6巻+幼児版)という、「テキスト」完全準拠の「書く」ことが中心の教材がありますが、これは、あくまでもテキストの演奏に必要な要素を、鍵盤の外で復習することに主眼をおくものです。「かくてんどリル」は、「楽典を学ぶこと」が主眼の、「どリーむ」のように「まんなかのド」から音域を広げるカリキュラムに沿った問題集として、2000年の3月から10月にかけて刊行されたものです。(か)



11月10日は **フランソワ・クーブラン** の誕生日!!  
(1668~1733)



- ♪ **ワルター・ギーゼキング**  
(ドイツ/ピアニスト/1895.11.5生)
- ♪ **ジョン・サザーランド**  
(オーストラリア/ソプラノ/歌手/1926.11.7生)
- ♪ **フランソワ・クーブラン**  
(フランス/作曲家/1668.11.10生)
- ♪ **アーロン・コーブラント**  
(アメリカ/作曲家/1900.11.14生)

バロック音楽とは17世紀から18世紀の中頃までのおよそ150年の西欧の音楽をいいます。音楽史上、J.S. バッハの存在があまりにも巨大なため、国で考えるとドイツ音楽がどうしても前面に出てきますが、当時の音楽の先進国はイタリアです。モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、ベルゴレージといった名前が思い浮かんできます。そのイタリア音楽に強い対抗意識を持つかのようにあったのが、フランスです。言うまでもなくブルボン王朝による絶対王政の時代、ヴェルサイユ宮殿と太陽王ルイ14世に象徴される眩いばかりの絶頂の時代です。

音楽でも、器楽曲からオペラまで光輝あふれるフランス音楽の精華が燦然としている時代です。なのに、21世紀の現代ではいまひとつ、関心の濃度が薄いようです。それは、時代の嗜好によるのかもしれませんが、おそらく、現代のスピーディーで慌ただしい勤働性とは、親和性があまり高くない音楽のような気がします。

さて、フランソワ・クーブラン (1668~1733) です。フレンチ・バロックのクラブサン (チェンバロ) 音楽の頂点に位置づけられる作曲家です。生涯4巻のクラブサン曲集をのこしました。27の組曲 (オールド) に230曲余りの小曲が含まれています。

当時の組曲は一般的にはプレリュード (前奏曲) に様々な舞曲を組み合わせたものですが、クーブランはこだわらずに自由な標題をつけた小曲集が多いです。その標題がなかなか興味深く面白い。いくつか例を引いてみますと、— 羊飼いの女、古き偉大な吟遊詩人たちの年代記、恋の夜うぐいす、修道女モニク、さまよえる亡霊たち…。タイトルを見ただけで、ちょっと聴いてみたくなってきますよね。じっさい、洒落にして優美、そして雅趣に富む。ときにシニカルであり、あるいは羽毛のように軽い悲しみの旋律がそよぎ、この世の実相を思わぬ和声があがつようです。音楽の核がポエジー (詩心) でできているのです。

「神秘的なバリケード (障壁)」という不思議なタイトルの曲があります。わりとよく演奏される曲ですが、いったいどういう意味なのでしょう？ わたしは、落ちそうで落ちない女心の不可思議、という解釈をしています。みなさんはどのように感じるでしょう？ (え)

## 今月のあかね先生



あかねピアノ教室には、「おんぶ」を覚えたらできる、「おんぶカード」と「けんばんボード」を使った大人気ゲームがあります。「カードを読む→ピースをボードに貼る→ピアノで音を出す」という簡単なものですが、みんな1つのチームになってタイムを競うから大盛り上がり！詳しくはセミナーでご紹介しています♪ (いも)

- 【10月の新刊】
- みんなだいすき!おんぶカード 定価:1,260円 (税込)
  - みんなだいすき!おおきなサイズのおんぶカード 定価:1,470円 (税込)
  - みんなだいすき!けんばんボード 定価:1,470円 (税込)

**\*今月のセミナースケジュール\***  
11/16 (金): [東京都/銀座] 山野楽器 銀座店  
『1音からはじめる楽しいピアノ・レッスン』

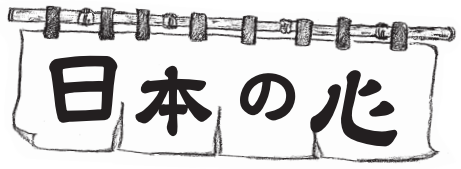
イラストや素材が新しくなって、「みんなだいすき!シリーズ」に加わりました!

## ★『大人の科学』×音楽最前線★

カセットやMD以前の録音機器と言えばオープンリールだった。今ではその姿はすっかり消え去り、音楽はデジタル全盛時代を迎えている。そんな急速にハイテク化する音楽メディアの趨勢を横目に、アナログとデジタルを見事に止揚させた若者たちがいる。音楽家・和田永を中心に5人のメンバーで構成される Open Reel Ensemble だ。彼らのライブを目の当たりにした観客は、その圧倒的なパフォーマンスと音楽性に打ちのめされ、誰もがその世界観の虜になってしまう。父の友人から偶然オープンリールデッキを譲り受けた和田は、その美しいフォルム、剥き出しの磁気テープ、シンプルな構造を見て、直感的に楽器としての可能性を見出す。そして、オープンリールが奏でる古い磁気テープのアナログな音を、コンピュータのデジタル・サンプリングと融合させ、彼らの天才的な発想力と音楽性でオープンリールを使ったライブパフォーマンスへと昇華させた。この大胆なコンセプトと衝撃的なライブは瞬間に評判となり、国内はもちろんのこと、現在世界中からオファーが殺到している。(さ)

【Open Reel Ensemble オフィシャルサイト】 <http://www.steamblue.net/>

さ霧消ゆる 湊江の舟に白し 朝の霜  
たた水鳥の 声はして いただ覚めず 岸の家



11月7日は「立冬」…冬の始まりです。この日を過ぎると初霜が降り始め、冬の気配が濃くなってきます。そして11月22日の「小雪」の頃、北国からは初雪の便りが届き始め、12月7日の「大雪」を迎えると一気に本格的な冬の到来です。

今月の1曲は、そんな冬を先取りして…。日本の初冬の風景を詠った「冬景色」です。第1節「早朝の漁港」、第2節「昼の田園」、第3節「夜の村里」の歌詞の中に、霧、霜、水鳥、鳥、麦踏み、小春日、時雨、ともしびなど、美しい初冬の日本の風景が巧みに盛り込まれています。国語学者の金田一春彦は「尋常小学唱歌の中で、歌詞がもっとも優れている。簡潔に朝昼夜の天候の変化を写したのは見事 (中略) 小学校のときに覚えた歌詞を口ずさんでいるうちに、その趣がわかってきた」と、この曲を絶賛しました。また、この曲の素晴らしさは、歌詞が「六五調」で、曲が4分の3拍子である、とも指摘しています。確かに、この曲が誕生するまでは「六五調」の歌詞はなく、3拍子の曲調と相俟って斬新な印象を与えたようです。

大正2年 (1913年) に発表された『尋常小学唱歌 (5)』に収載。唱歌は特定の作者を明記しなかったため、時代を経た今も作者が決定できない曲も数多く、この曲も不明のまま現在に至っています。(く)

\*参照「私の心の歌—冬」(学研パブリッシング刊)



### つむりの練習手帳

つむりは、ハノンがなかなかうまくひけません。音符をひとつずつ追っかけてながらひいているから、いつまでたってもつかえつかえです。正直、苦手です。先生には「指の動き方とか開き方は、おなじだよ。パターンになってるよ。一個ずつ音をずらしていくだけでしょ。」って教えてもらってるのに、わかんないみたい。今も、「つむり」っぼさ全開のたどたどしいハノンが聞こえてきて、ちょっとイラっとなります。(トホホお兄)

**つむり現在の楽譜**

- ☆こどものハノン④
- ☆バスティンピアノバイシックス1
- ☆こどものバイエル⑦(74番)

編集部のつぼせいったー!

譜読みができる、それはずばり、世界共通語ができるということ! (@め)

Tsubuyaitter..... Like!!

Facebookはじめました♪ <http://www.facebook.com/gakken.music>